

第4章

産業・観光

～地域資源を活かした活力ある産業のまち～

基本施策

21	多様な働く場の確保	128
22	企業立地の推進	132
23	商工業の振興	136
24	農林水産業の推進	138
25	観光・交流の振興	142



基本施策

21

多様な働く場の確保

2029年のあるべき姿

国、県、経済団体等と連携し、雇用の確保や就業支援を推進することにより、若者などの地元定着が進む状況となっています。

現状と課題

- 宇部管内の有効求人倍率は高い水準を維持していますが、業種や職種によっては、求人と求職のミスマッチが生じている状況となっています。
- 職業能力開発の拠点となる雇用能力開発支援センター及び勤労者福祉の拠点となる労働会館は、かなりの築年数が経過し老朽化が著しい状況となっています。
- 勤労者に対する共済制度や融資制度など勤労者への支援は、加入者、利用者が減少している状況となっています。

4年間の目標

- ハローワーク、商工会議所と連携した雇用、就業支援の推進
- 施設の改修、廃止、転用等の検討
- 事業者、勤労者への支援制度のPRの強化

目標指標

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
有効求人倍率(年度平均)	宇部公共職業安定所管内	1.48倍	1.50倍

基 本 事 業

(1) 就業対策の充実

地域職業相談室による求職相談や、市就職説明会を開催し、就業に向けた支援を行うとともに、国・県と連携を図りながら若者、女性、高齢者、障がい者などの就業支援や雇用のミスマッチの解消を推進します。また、市長による企業訪問を始め、定期的に市内企業に対して雇用の創出について依頼を行います。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和元年度)	中期目標値 (令和7年度)
市就職説明会・面接会への参加者数	市内事業者限定で実施する説明会等への参加者数	44 人/年	100 人/年
市内事業所訪問数	—	162 社/年	200 社/年

主要事業

■ 就業対策推進事業

■ 雇用創出事業

(2) 職業能力の開発向上

時代のニーズに対応できるよう、雇用能力開発支援センター等による就業希望者・就業者の職業能力の開発支援を行います。また、施設の適正な管理・運営に努めます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和元年度)	中期目標値 (令和7年度)
雇用能力開発支援センターの年間利用者数	雇用能力開発支援センターで実施されている職業能力講習等の年間受講者数	16,402 人	17,000 人

主要事業

■ 職業能力開発事業

(3) 勤労者福祉の推進

中小企業の勤労者に対する共済制度や金融制度の充実を図るとともに、これらの制度の普及・拡大を促進していきます。また、勤労福祉施設については、適正な管理・運営に努めます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
中小企業退職金共済制度 に加入している事業主	—	67 社	75 社
勤労福祉共済会加入者数	—	512 人	532 人

主要
事業

■ 勤労者福祉推進事業



就職フェア

基本施策

22

企業立地の推進

2029年のあるべき姿

小野田・楠企業団地の全区画において企業進出が実現し、更なる企業誘致を図るため、未利用地の発掘、新たな団地の造成、サテライトオフィス*等の設置など、受け皿の方向性を定めた上で誘致活動を継続するとともに、定期的な企業訪問を実施し、市内企業の事業拡大を支援している状況となっています。また、市内企業と山口東京理科大学が連携を深め、新商品・新技術の開発はもとより、人材育成や事業活動における課題解決など幅広く連携できる環境になっています。

現状と課題

- 小野田・楠企業団地には未分譲地があるため、早期の完売を実現する必要があります。また、分譲終了後は、新たに市外からの企業を誘致する用地等がない状況となります。
- 企業団地内の市が管理する施設等の維持管理費が増加し、適正な管理が困難になっています。
- 近年、企業が事業所等の集約化、拠点化を進める動きが加速しており、本市においても企業の市外への流出を防ぐ必要があります。
- 市内企業と山口東京理科大学が、新商品開発など幅広く連携できるような環境を整備していく必要があります。

4年間の目標

- 小野田・楠企業団地の分譲促進
- 新たな企業誘致の方向性の検討
- 施設の更新を見据えた効率的な管理計画の策定及び計画に沿った適正な管理の実施
- 市内企業のニーズ調査の実施及び優遇制度の見直し
- 産学官連携推進協議会の取組の強化
- 企業と大学のマッチングの場の提供

目標指標

指標	説明	現状値	中期目標値 (令和7年度)
企業の立地件数	市内への企業誘致件数(市内企業、市外企業)	(令和2年度) 2件/年	2件/年
製造品出荷額 (工業統計調査)	従業員4人以上の事業所	(平成30年度) 7,996.6億円	8,000億円

基本事業

(1) 企業誘致の推進

優れた立地環境や工場設置奨励条例などの制度を対外的にPRし、企業団地への誘致活動を進めるとともに既存企業の増設など事業拡大を支援し、雇用の場の創出と産業の活性化を図ります。また、新たに市外からの企業を誘致する受け皿の方向性を定め、継続的な誘致活動を推進します。

【評価指標】

指標	説明	現状値	中期目標値 (令和7年度)
小野田・楠企業団地分譲率	$\frac{\text{分譲済面積}}{\text{事業用地面積}} \times 100$	(令和3年度) 74.6%	100%
工場設置奨励条例奨励金 交付件数	—	(令和2年度) 11件/年	11件/年

主要事業

■ 企業誘致推進事業

(2) 産学官連携の推進

地元企業、山口東京理科大学、商工会議所と連携を強化し、新しい産業・技術の創出に向けた環境の整備に取り組み、地域経済の活性化を目指します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
企業の山口東京理科大学への技術相談件数	技術説明会・研究室公開の実施等による問合せ件数・相談件数	58件/年	60件/年

主要事業



■産学公連携推進事業

■新産業創出支援事業

(3) 立地基盤の整備

企業誘致を継続的に推進するため、企業団地のインフラ整備、企業団地内施設の適正な維持管理を実施することで、企業が成長できる環境を整備します。

主要事業



■立地基盤整備事業



小野田・楠企業団地

基本施策

23

商工業の振興

2029年のあるべき姿

JR 駅周辺の商店街や大型商業施設周辺などを中心に商業集積を促進し、店舗等が立地することにより、にぎわいが生まれるようなまちを形成しています。また、中小企業振興基本条例に沿った事業を実施することにより、市内の中小企業者が、中小企業を取り巻く経営環境の変化に対応し、事業を継続することができる環境になっています。さらに、起業しやすい環境を整備することにより創業を志す方が集まる状況になっています。

現状と課題

- 事業所の減少などにより駅前商店街などのにぎわいが、年々なくなってきています。
- 経済環境や社会環境の変化等、中小企業を取り巻く経営環境は常に変わるため、中小企業者が継続して事業活動できる環境を整備する必要があります。

4年間の目標

- 商業振興、駅前商店街などの活性化に関する施策の推進
- 創業支援の促進
- 中小企業の発展と継続を支援する施策の検討・実施

目標指標

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
市内事業所数	法人市民税均等割課税事業所数	1,286 社	1,290 社
駅前商店街の営業店舗数 (商店街現況調査)	商店街現況調査	122 店舗	125 店舗

基 本 事 業

(1) 商業振興支援の充実

購買力の市外流出に対応し、商業集積を促進します。あわせて、商圈の拡大を図ります。商業・商店街の振興を図るため、創業の支援、空き店舗等の有効活用、各種イベントの支援等を図ります。また、JR駅周辺等の既存商店街を中心ににぎわいの創出に努めます。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
創業件数	創業支援等事業計画に基づく 創業支援事業を受ける者	18 件/年	25 件/年

主要 事業

■ 既存商店街振興事業

■ 商業振興支援事業

(2) 中小企業支援の充実

中小企業振興基本条例に基づき、創業や既存企業に対する経営体質の改善等に関する相談や制度融資などによる支援を行い、中小企業の振興を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和元年度)	中期目標値 (令和7年度)
中小企業振興資金等融資実績額	—	16,614 万円/年	17,000 万円/年
中小企業相談所における相談・指導件数	—	2,787 件/年	2,800 件/年

主要 事業

■ 中小企業経営支援事業

関連する個別計画

- 山陽小野田市創業支援等事業計画（平成 28 年度～令和 4 年度）

基本施策

24

農林水産業の推進

2029年のあるべき姿

農林水産業全般を通じて生産基盤が整備され、担い手により食料が安定供給されています。農業では、担い手支援などにより後継者の育成が進み、地産地消の推進や6次産業化*の進展と相まって、生産性の向上が図られています。林業では、市内の森林について適切な維持管理が行われ、水産業では、漁港整備や種苗の放流による資源の回復等を通じて漁業活動が維持されるなど、農山漁村の有する多面的機能が発揮されるとともに、農林水産業の持続的発展が図られています。

現状と課題

- 従事者の高齢化の進行や担い手不足が原因となり、農林水産業を維持していくことが困難です。
- 農林水産関連施設が老朽化しており、効率的な事業環境が損なわれています。
- 消費者ニーズが多様化する中で、需要に応える产品及び製品の開発が必要です。

4年間の目標

- 担い手の確保・育成
- 経営基盤の強化
- 施設の計画的な整備
- 従事者の環境づくり
- 需要に応える生産力の強化
- 6次産業化*・農商工連携による付加価値商品の開発

目標指標

指標	説明	現状値 (令和3年度)	中期目標値 (令和7年度)
認定農業者数 (法人を含む)	農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画を作成し、市の認定を受けた農業者数	56人	60人
市有林の整備面積	—	3.64ha/年	3.64ha/年
漁業経営体数	港勢調査による4漁協(小野田、高泊、厚狭、埴生)の経営体数	49人	49人

基 本 事 業

(1) 経営体の育成・確保及び経営基盤の強化

農業においては担い手の育成・確保に向け就業者支援に取り組むとともに、畜産業の振興に努めます。また、水産業においては担い手の育成・確保に向け中核的漁業者（師匠漁師）^{*}の育成に取り組みます。そのほか支援事業の充実など経営基盤の強化を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和3年度)	中期目標値 (令和7年度)
認定新規就農者数	農業経営基盤強化促進法に基づく青年等就農計画を作成し、市の認定を受けた新規農業者数	6人	6人
新規漁業就業者数	市内漁協4支店への調査	0人	2人

主要事業

- 農業生産者支援事業
- 畜産支援事業
- 新規就業者支援事業
- 農地利用最適化事業

(2) 生産基盤の整備

農業においてはため池、農道、水路などの農業基盤整備や農地の集積・集約化を推進します。林業においては林道や作業道の整備や多面的な機能を発揮するため森林の適正な管理に努めるとともに有害鳥獣対策を推進します。水産業においては安全性を向上し、働きやすい就労環境を実現するため漁港施設の整備を行います。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和3年度)	中期目標値 (令和7年度)
圃場整備等の基盤整備進捗率(事業費ベース)	王喜東(埴生)地区、郡・川東地区	23.2%	76.0%
漁港施設の整備事業箇所数	漁港施設内の工事実施箇所数	2か所	4か所

主要事業

- 農業基盤整備事業
- 有害鳥獣対策事業
- 土地改良事業
- 林業基盤整備事業
- 農地集積・集約化対策事業
- 漁港整備事業

(3) 需要に応える生産力の強化

スマート農業[※]の取組など先端技術を導入し、省力化、効率化による作付拡大や生産性の向上など生産力の強化を図ります。また、地産地消を推進します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和3年度)	中期目標値 (令和7年度)
作物作付面積	水稻生産実施計画書による集計	834ha	834ha

主要事業

- 地産地消推進事業
- 魚食普及推進事業

(4) 地域ブランドの推進

農林水産事業者を始めとした多様な関係者の参画により、名産品や特産品の発掘、開発、活用を促進します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和3年度)	中期目標値 (令和7年度)
加工品の開発数(累計)	6次産業化 [※] ・農商工連携による新商品開発数	0 個	8 個

主要事業

- 農産物ブランド化推進事業

関連する個別計画

- 山陽小野田市農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想（令和2年度～）
- 山陽小野田市農業振興地域整備計画（令和3年度～）
- 山陽小野田市森林整備計画（令和2年度～令和11年度）
- 山陽小野田市個別施設計画（4漁港）



寝太郎かぼちゃ出荷式

基本施策

25

観光・交流の振興

2029年のあるべき姿

観光関連団体や様々な事業者、市民活動団体等と連携して、魅力的な観光ルートを提供しています。あわせて、積極的な情報発信、広域的な取組によって、交流人口が増加し、地域経済への波及効果が生じています。

現状と課題

- 観光旅行者の市内周遊が低調な状況です。
- 観光客数は伸びていますが、観光消費額が高くない状況です。

4年間の目標

- 魅力的な観光ルートづくり及び情報発信の実施
- 観光客の市内周遊性向上による滞在時間の長時間化
- 名産品等の購買額上昇

目標指標

指標	説明	現状値 (令和元年度)	中期目標値 (令和7年度)
本市への観光客数	—	1,160,215 人/年	1,200,000 人/年

基 本 事 業

(1) 観光・交流資源の整備・充実

既存観光資源を活用して、魅力的な観光ルートづくりを進めます。また、近隣市と連携した広域観光による誘客促進、観光客の市内周遊性の向上により、滞在時間を延ばすとともに、名産品を含めた観光消費額の増加を図ります。

【評価指標】

指標	説明	現状値	中期目標値 (令和7年度)
他団体と連携したツアーの実施回数	産業観光バスツアー・県央連携PTでのツアー実施合計回数	(令和元年度) 10回/年	10回/年
山陽小野田名産品※認定数	山陽小野田の名産品として認定された商品数	(令和2年度) 35品目	40品目

主要事業

- 観光交流資源整備事業
- 山陽小野田名産品活用推進事業
- 広域観光振興事業

(2) 情報発信・誘客体制の強化・充実

観光情報を分かりやすく積極的に発信し、市の魅力を知ってもらい、観光客数の増加を図ります。また、観光客受入体制を充実させ、観光客へのホスピタリティ向上を推進します。

【評価指標】

指標	説明	現状値 (令和2年度)	中期目標値 (令和7年度)
山陽小野田観光協会のホームページ・SNS※(facebook・Instagram)のビュー数	—	160,199ビュー	195,000ビュー
おもてなしサポーター※登録者数	—	54人	100人

主要事業

- 観光振興事業
- 観光推進組織支援事業
- 外国人観光客誘致事業
- 観光振興推進体制強化事業

関連する個別計画

- 山陽小野田市観光振興プラン（令和元年度～）



竜王山



花の海